

金沢市における散策空間の形成に関する考察*

Improvements of Promenade Spaces in Kanazawa

和田章仁**・材野博司***

By Akihito WADA, Hiroshi ZAINO

1. はじめに

本研究は、都市に居住する人々が積極的に都市に生きる喜びを感じることができる行動の一つである『散策』に着目して、その特性を把握・分析することにより、快適な都市空間の形成のための糸口を探ろうとするものである。このため、本稿では金沢市民を対象として散策に関するアンケート調査を実施し、これらの分析結果から得られた散策特性を他都市で行った調査結果¹⁾²⁾との比較検討を行う。さらに、日常と冬期積雪時の2ケースの散策状況の分析結果から、散策場所やそのコースである散策空間についての魅力や不満に影響を与える要因の軽重に対して検討を行う。これにより、日常や冬期積雪時における魅力的な都市空間形成の方向性について考察するものである。

2. 調査の内容と方法

アンケート調査は20才以上の金沢市民を対象として、1997年2月に郵送による配布・回収方式により実施した。配布数は800戸で有効回収数は256戸であったことから、有効回収率は32.8%であった。なお、配布については1戸（1封筒）当り2票のアンケート用紙を送付したことから、1戸当りの平均回収票数は約1.7票であった。これらアンケート調査の概要は表-1に示す。

また、調査項目の内容は表-2に示すとおり、個人属性、散策理由、散策時刻（時間帯）および日常と冬期積雪時の2ケースの散策頻度、散策時間、散策場所、散策場所の魅力と不満な点である。

3. 散策行動の実態

表-1 アンケート調査の概要

調査方法	郵送による配布・回収
配布数	800戸 (1600票)
有効配布数	781戸 (1562票)
回収数	262戸 (441票)
有効回収数	256戸 (433票)
有効回収率	32.8%

表-2 アンケート調査の内容

個人属性	性別、年齢別、職業別
散策状況	日常と冬期積雪時ごとの散策の頻度、時間、場所
その他	日常と冬期積雪時ごとの散策場所の魅力 散策場所の不満な点

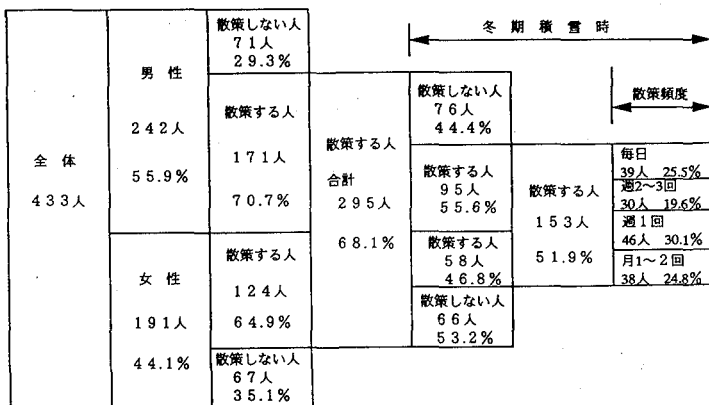


図-1 金沢市民の散策状況

(1) 散策の状況

金沢市民の散策の状況については図-1に示している。これによると、散策を行う人の割合は男性が71%で女性の65%より高率であり、両者の平均散策

*キーワーズ；歩行者、観光・余暇、空間整備・設計
 **正会員、工博、福井工業大学建設工学科（福井市学園3-6-1 TEL.0776-22-8111 FAX.0776-29-7891）
 ***工博、京都工芸繊維大学造形工学科（京都市左京区松ヶ崎 TEL.075-724-7645 FAX.075-724-7602）

表-3 都市別年齢別の散策率

都市	年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80以上	全体
大 阪		55	46	54	65	75	78	88	66
京 都		73	83	80	75	83	87	78	79
金 沢		54	45	58	71	76	84	69	68

単位：％

率は約68%であった。また、散策を行っている人の295人のうち冬期積雪時にも散策をする人は男女合せて153人であることから、日常散策する人のうち約半数が冬期積雪時においても散策を行っていることがわかる。

また、年齢別の散策者の割合を他都市と比較したものが表-3である。これによると、散策を行う人の全体の割合は金沢市と大阪市はほぼ同値である。さらに、金沢市と大阪市の年齢別散策者の割合をみても最高齢の80才以上を除くとほぼ似通った傾向である。

(2) 季節別による散策時間の比較

日常の散策時間と冬期積雪時の散策時間の割合を比較すると、図-2に示すように双方とも30分から1時間未満の時間帯がほぼ同率で過半数を占めている。また、各時間帯の順位についても同順である。しかし、散策時間が1時間以上の2つの時間帯の合計をみると、日常では20%を超えているが冬期積雪時には10%未満で、その内2時間以上については皆無である。このことから、冬期積雪時における散策時間は、日常の散策時間より短い時間帯に集中していることがわかった

一方、これから平均散策時間を算定した。すなわち、散策時間については階級値として質問したため、概ね各階級値の中央値を代表値として取扱った。

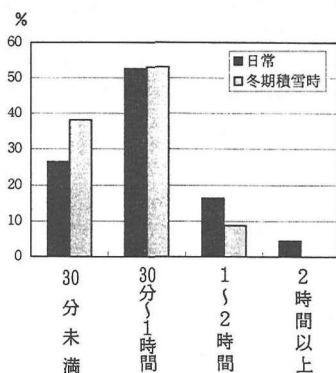


図-2 日常と冬期積雪時との散策時間の比較

- ・30分未満；15分、・30分～1時間未満；45分、
- ・1時間～2時間未満；1時間30分、
- ・2時間以上；3時間

なお、2時間以上については3時間と記述されたものが最多であったので、これを代表値とした。この結果、日常の平均散策時間は約51分で、冬期積雪時のそれは約38分であった。これにより、冬期積雪時には日常より短い時間で済ましていることがわかった。また、大阪、京都両市民の平均散策時間は約55分であったことから、金沢市民の日常の平均散策時間もそれに近い値であることがわかった。

(3) 季節別による散策頻度の比較

金沢市と大阪市および京都市の散策頻度を比較すると、表-4に示すように金沢市と京都市の比率が「毎日」と「週2～3回」が入れ替わっているだけで、ほとんど同じ割合であることがわかる。

一方、金沢市における日常の散策頻度と冬期積雪時の散策頻度の関係をみると、表-5に示すように、日常において毎日散策する人は、冬期積雪時においても毎日散策する割合が75%と高くなっている。しかし、「毎日」を除く他の頻度においては、冬期積雪時における同頻度の割合は34%から43%と過半数に満たず「毎日」より低くなっている。このことから、毎日散策する人にとって散策は習慣化されていることがわかる。

(4) 季節別による散策地の比較

日常と冬期積雪時における散策地の比較を行ったものが図-3である。これによると、日常の散策地は

表-4 都市別の散策頻度

散策頻度	毎 日	週2～3回	週1回	月1～2回	年数回	合 計
都 市						
大 阪	25.3	15.8	18.5	22.6	17.8	100
京 都	21.2	16.8	15.8	18.7	27.5	100
金 沢	17.3	21.4	15.9	19.0	26.4	100

単位：％

表-5 日常からみた冬期積雪時の散策頻度

冬期積雪時	毎 日	週2～3回	週1回	月1～2回	ほとんどしない	合 計
日 常						
毎 日	74.5	11.8	5.9	0	7.8	100
週2～3回	—	34.9	36.5	9.5	19.1	100
週1回	—	—	42.6	25.5	31.9	100
月1～2回	—	—	—	33.9	66.1	100

単位：％

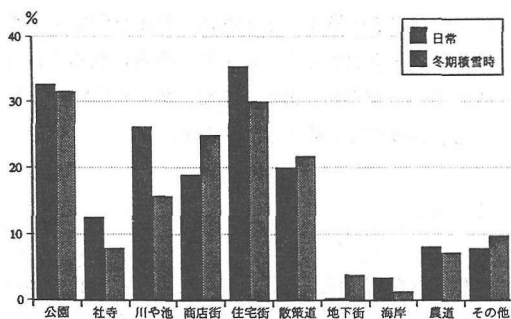


図-3 日常と冬期積雪時との散策地の比較

表-6 単独選択値の算出

選 択 数		単独選択	2項目選択	3項目選択	4項目選択	合 計	ウエイト値合計 ÷実数合計（％）
魅 力 要 因		1/1	1/2	1/3	1/4		
静かである	実 数	11	30	29	105	175	35.4
	ウエイト値	11	15	9.67	26.25	61.92	
木が多い	実 数	3	8	19	71	101	30.8
	ウエイト値	3	4	6.33	17.75	31.08	
川や池の 雰囲気がよい	実 数	7	14	18	62	101	35.1
	ウエイト値	7	7	6	15.5	35.50	
眺望がすばらしい	実 数	2	7	11	54	74	30.6
	ウエイト値	2	3.5	3.67	13.5	22.67	
歴史的な場所	実 数	0	0	2	28	30	25.6
	ウエイト値	0	0	0.67	7	7.67	
古い街並みが残る	実 数	1	0	5	24	30	28.9
	ウエイト値	1	0	1.67	6	8.67	
街並みが美しい	実 数	1	6	4	20	31	33.3
	ウエイト値	1	3	1.33	5	10.33	
街路樹が美しい	実 数	0	0	8	31	39	26.7
	ウエイト値	0	0	2.67	7.75	10.42	
舗装や歩道橋の デザインがよい	実 数	0	1	2	5	8	30.3
	ウエイト値	0	0.5	0.67	1.25	2.42	
道路に舗装が されていない	実 数	0	1	2	13	16	27.6
	ウエイト値	0	0.5	0.67	3.25	4.42	
車の交通量が少ない	実 数	8	27	14	60	109	37.8
	ウエイト値	8	13.5	4.67	15	41.17	
寺や神社がある	実 数	1	1	2	30	34	28.4
	ウエイト値	1	0.5	0.67	7.5	9.67	
にぎやかである	実 数	0	0	2	6	8	27.1
	ウエイト値	0	0	0.67	1.5	2.17	
魅力的な店が多い	実 数	2	1	5	20	28	32.8
	ウエイト値	2	0.5	1.67	5	9.17	
照明が明るい	実 数	3	1	1	4	9	53.7
	ウエイト値	3	0.5	0.33	1	4.83	
喫茶店など一服 するところがある	実 数	0	2	6	14	22	29.5
	ウエイト値	0	1	2	3.5	6.5	
その他	実 数	9	5	2	9	25	57.7
	ウエイト値	9	2.5	0.67	2.25	14.42	
平均単独選択値=総ウエイト値÷総選択項目数=283.03÷840= 33.7%							

「住宅街」「公園」「川や池」および「散策道」が20%を超えており、続いて「商店街」「社寺」となっている。一方、冬期積雪時においては、「公園」「住宅街」「商店街」および「散策道」が20%を超えており、「川や池」がそれに続いている。

このように、「公園」や「散策道」は季節的な変動は少ないが、「住宅街」「川や池」および「社寺」は冬期積雪時の比率が日常より落込んでいる。それに比べて「商店街」の比率は逆に冬期積雪時で大きくなっている。このことから、日常と冬期積雪時の散策先が異なっていることがわかる。

4. 単独選択値からみた散策地の魅力と不満

(1) 単独選択値の算出方法

アンケート調査において、散策場所やコースである散策空間についての魅力および不満要因の選択方法は、16～17項目の内最大4項目まで選択可能とした。これによって、1項目だけの単独選択と、2～4項目が選択されている内の一つの選択では、その魅力や不満に対する軽重が異なると考えられる。したがって、ここでは表-6のように選択実数にそれぞれ1、1/2、1/3、1/4を乗ずることによりウエイト値を算出し、その合計の値に選択実数の合計値で除した数値を%で表示し、これを単独選択値とした。

このように算出した単独選択値の範囲は25%から100%までの数値であり、大きな値ほど単独選択性が高く、対象空間への影響が大きくなる。また、総ウエイト値を総選択実数で除したものを平均単独選択値とした。

(2) 単独選択値による散策空間の形成要因

日常と冬期積雪時の季節毎の散策空間に対する魅力および不満要因の単独選択値の比較を表-7および表-8に示した。この比較表においては、選択実数の合計が総選択実数の2%以下の少ない魅力と不満要因およびその他については除外している。

この二つの表の魅力と不満の平均単独選択値を比較すると、日常と冬期積雪時の双方とも不満要因の方が魅力要因より高い値である。すなわち、対象空間の不満を形成する要因が魅力の形成要因よりも、全体として大きな重みを占めているといえよう。

ここで魅力要因を個別にみると、「静かである」「車の交通量が少ない」および「川や池の雰囲気がい

表-7 魅力要因による単独選択値

魅力要因	単位 ; %	
	日常	冬期積雪時
静かである	35.4	43.5
木が多い	30.8	31.5
川や池の雰囲気がい	35.1	40.0
眺望がすばらしい	30.6	31.4
歴史的な場所	25.6	28.9
古い街並みが残る	28.9	—
街並みが美しい	33.3	28.0
街路樹が美しい	26.7	27.8
車の交通量が少ない	37.8	40.1
寺や神社がある	28.4	28.5
魅力的な店が多い	32.8	40.0
喫茶店など一服する所	29.5	31.1
除排雪設備がある	—	36.1
平均単独選択値	33.7	35.9

表-8 不満要因による単独選択値

不満要因	単位 ; %	
	日常	冬期積雪時
遠すぎる	47.0	51.0
車が多く危険	44.3	44.6
舗装が悪く歩きにくい	41.0	36.3
途中の道に魅力がない	47.0	45.2
木が少ない	45.8	38.9
川や池などの水辺がない	38.1	41.6
座るところがない	46.3	45.8
人が多い	32.5	35.7
お茶を飲んで休む所がない	53.9	49.4
照明が暗い	50.8	50.0
違法駐車がじゃま	42.9	35.4
周囲の雰囲気を壊す建物	32.5	35.7
除雪されていない	—	52.2
平均単独選択値	46.1	45.2

よい」が高い値を示しており、これらの要因は単独でも魅力的な空間を形成するものと考えられよう。逆に、低い数値である「歴史的な場所」「街路樹が美しい」および「寺や神社がある」は、他の魅力的要因と合せることにより魅力的な空間を形成するものと考えられる。なお、これら単独選択値を平均単独選択値と比較すると、その高低は季節にかかわらず同じ傾向である。しかし、例外として「魅力的な店が多い」の単独選択数は、日常では平均より低く、冬期積雪時では高くなっていることから、季節によって魅力に対する重みが異なっている特異な要因であることがわかる。

一方、不満を要因別にみると「お茶を飲んで休む所がない」「照明が暗い」「遠すぎる」および「座るところがない」が高い値であり、また、冬期積雪時には「除雪されていない」も高い値であった。これらの要因は単独でも対象空間を不満な空間として感じていると考えられる。逆に、低い値である「人が多い」「周囲の雰囲気を壊す建物がある」および「舗装が悪く歩きにくい」は、他の要因と合せることにより不満を感じているものと考えられる。

5. 魅力的な散策空間の創出に向けて

(1) 散策空間に対する魅力の向上

散策空間に対する魅力要因の内、単独選択数が高い値を示しているものを優先的に整備・実施することにより、魅力的な空間形成に貢献できるものと考えられる。これに対応するものには、静けさ、少ない交通量、水辺の雰囲気および冬期積雪時における魅力的な店が挙げられるが、対象空間に対して人工的に整備が可能なものは雰囲気の良い水辺の整備が挙げられよう。その他の項目は直接、対象空間に対策を講じることはできないが、散策コースの変更によって魅力ある散策空間の形成につながるものである。

(2) 散策空間における不満点の解消

散策空間に対する不満要因の内、単独選択数が高い値を示しているものを優先的にその解決を図ることにより、魅力的な空間形成に貢献できるものと考えられる。この内、人工的に整備が可能なものは、

ベンチなどを配置するとともに、対象空間に照明機器を設置・充実することにより、明るい空間を実現させることが必要である。また、冬期積雪時には、対象空間の除雪が望まれる。

6. まとめ

快適な散策空間の形成については様々な観点からの研究・検討が必要と考えられることから、本稿では金沢市民を対象に日常と冬期積雪時の季節別の散策行動に関する調査を実施した。この結果から、他都市との散策状況の比較と、散策空間についての魅力や不満に影響を与える要因について検討を試みた。これらから、次のような結果が得られた。

①都市別および季節別の散策時間

金沢市民の日常の散策時間を大阪や京都市民の散策時間と比較した結果、それぞれ約51分と約54分であり、ほぼ同じ時間散策を行っていることがわかった。また、冬期積雪時の散策時間は約38分であり、日常の散策より短いことがわかった。

②季節別からみた散策頻度

日常において、毎日散策する人の内4人に3人は冬期積雪時においても毎日散策していることがわかった。これは散策が習慣化されており、毎日散策する人にとって、散策は人間生活の基本条件の一つになっていると考えることができよう。

③単独選択値による散策空間の魅力の向上

散策空間に対する魅力的要因と不満要因の軽重を単独選択値によって明らかにできた。その結果、散策空間に対する単独選択値の数値が高いものを優先的に整備・解決することにより、散策空間の魅力の向上に貢献できることが判明した。

今後の課題としては、単独選択値と快適性との関係を検討することにしたい。

[参考文献]

- 1) 和田章仁・材野博司：京都市における散策実態行動の特性，土木計画学研究・講演集，NO. 17，PP. 387～390，1995.
- 2) 和田章仁・材野博司：大阪市における散策実態行動からみた散策空間，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-1，pp. 113～114，1995